

サービスラーニング クラス活動報告書

『地域に生きるNPO』

活動先： NPO法人ひだまり

提出年月日： 2009年12月3日

1. 活動先紹介

NPO法人ひだまりは、「いつまでも住み慣れた町で安心して暮らしていきたい」という方のお手伝いをモットーに活動している団体です。

介護保険事業として、居宅介護支援事業所と指定通所介護事業（デイサービス）を行っています。居宅介護支援事業所では、2人のケアマネージャが介護の相談や、ケアプランの作成を行っています。また、NPO法人ひだまりの事務局としても活動をしており、外部との連携や、お金に関する事など、細かい事務作業をしています。

指定通所介護事業（デイサービス）は、定員10人となっています。家庭的な雰囲気を重視しているため少人数であり、食事も栄養士の資格を持った職員が献立を考え、職員が手作りしています。日中の活動を重視するデイサービスは、レクリエーションとして折り紙教室や造形教室など多くの活動を行っています。そしてそれぞれに多くのボランティアが関わって成り立っているデイサービスです。

NPO自主事業として、移動サービス、訪問介護・託児サービス、地域交流支援を行っています。地域交流支援では、書道教室やレザークラスなどの各種教室を開いています。また、半田市立図書館・博物館内に喫茶ひだまりを営業しています。働いているのは、障害を持つ子供たちの母親です。将来グループホームの開設を目指し、資金集めの一環としてここで働いています。図書館や博物館利用者の憩いの場として多くの人が利用しています。

2. 当初の活動目的、目標

私たちは、「ひだまりがどのように成立し、今どのようなニーズがあるか知ることで、私たちに何ができるか考える。また、多種多様な事業を行っているひだまりで活動することによって私たちの将来につなげていく」という活動目的をさだめ活動してきました。

NPO法人ひだまりの情報が少なく、どのような活動をさせてもらえるのか悩みながら決めました。

3. 私達の活動内容

活動内容として、NPOを理解するということから始めました。いろいろな活動をしているひだまりは学ぶことが多くありました。活動の中心となったのがデイサービスと喫茶ひだまりでの活動でした。

デイサービスでは利用者の方とコミュニケーションをとることを始めとし、職員の方がどのように働いているか、どのように利用者の方と関わっているかを見ることを目的として活動しました。また自分たちの考えたレクリエーションをやることも、目標に活動しました。実際、職員の方は、自分たちが楽しみながら働いているようでした。そのため私たちも、笑顔を大切にして活動しました。また、会話でコミュニケーションをとる時は、はっきりと大きな声で話すようにしました。そして、耳が聞こえず手話を使う利用者の方や、目がほとんど見えず、少しばかり悲観的な方に対してもジェスチャーを使って話したり、目が見えなくてもできることをできるように手伝うことをしました。目標としていた自分たちで考えたレクリエーションは、手作りパズルを作成し、利用者の方に使っていただきました。また、もともと使われていた輪投げ台を修理し、輪投げをしました。

居宅介護支援事業所では、介護認定にかかわる講習会などに参加させていただきました。また、事務局の仕事を知るということで、毎月発行している「ようこそようこそ」の発行の手伝いを行いました。地味な作業ではありましたが、NPO法人ひだまりの活動を広報するといった面や支えるといった面で重要な役割を持つのが事務局だと知りました。

喫茶ひだまりでは、接客などお店の手伝いをしました。親子連れや受験勉強に来ている学生さん、いつも来ているという常連さんまで多くのお客さんがいることを知りました。

他にも多くの活動をさせていただきました。NPO法人のつながりを理解するということで、他のNPO法人の見学をさせてもらいました。わたぼうし、ベタニアホーム、ゆめじろうなど、多くのNPO法人の見学に行かせてもらいました。また、私たちが活動している間に中学生の職場体験がありました。特別支援学級に通う2人の男の子がNPO法人ひだまりのデイサービスにやってきて一緒に活動しました。

障がいを持つ方と関わるということでは、喫茶ひだまりでも、特別支援学校の高等部の女の子と一緒に活動をしました。彼女は私たちにナプキンの織り方や、おせんべいの袋の詰め方を教えてくれました。障がいがあるからと言って何もできないのではなく、できることが多くあるということを彼女から知りました。また、障がい児・者のための料理教室にも参加しました。これは、将来自立して生活をできるようにということを視野に入れて、簡単な料理を覚えようということで、レトルト食品などを使った簡単な料理作りを行いました。自分たちより包丁が上手に使える方などいろいろな方がいました。

子供たちの書道教室では、子どもたちと共に書道を行いました。教えることの難しさを知ると共に、子どもたちの元気な様子に私たちも元気をもらいました。

4. 活動における疑問、問題点

サービスラーニングプランへの取り組みが、今年初ということでNPOの法人側も私たち活動する側も不明な点が多くあったと思います。サービスラーニングの活動は実践的感覚的に理解するところが多かったとも思います。

今までない観念を理解するという一方で、活動を終えてからもっとこうしたらよかったのではないかと感じることもありました。プログラムの趣旨を理解して取り組めなかったことが後悔として残っています。活動の中では、自分たちで考えたレクリエーションを行うことが一部の人しかできませんでした。準備不足であるとともに、サービスラーニングの趣旨をうまく理解していなかったことが原因と思います。

5. サービスラーニングを通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

私たちは、サービスラーニングをとうして高齢者の支援サービスの現場を知ることができました。普段関わることのできない高齢者との関わりが持てたことは、来年現場実習を控えている私たちにとって重要な経験となりました。そして、コミュニケーションの取り方を学びました。話すことは、普段友人と話すのと同じで、楽しくしていくことが大切だと職員さんの姿から学びました。高齢者、若者という区別はせず、どのような世代でも会話を楽しむということは変わらずあるということです。

また、NPO法人の活動の多様性、柔軟性を学びました。やりたいことを自分たちの責任が持てる範囲でやるというNPO法人ひだまりの考え方にとても共感をもつとともに、一方、どのNPO法人もこのように考えで取り組んでいるのだろうか？という疑問にもつながりました。そして、地域の問題解決や要望があれば、どのような方面にも活動をのばしていくということに、さらにNPO法人の活動の多様性と柔軟性を感じ、地域に生きるNPOを体感しました。

6. グループ研究の成果を踏まえて今後どう活かすかの抱負

今回の活動を通して、私たちは今後学んでいく時に地域福祉の視点を忘れることはないでしょう。そしてさらに、NPO法人という新たな資源を忘れることはないでしょう。また、私たちは来年、社会福祉士の現場実習があります。今回の活動は来年度の現場実習に十分活かすことができると思います。また、活かしていきたいと思います。

7. 活動の提案

提案として、広報活動の充実化を提案します。なぜなら、とても素晴らしい活動をしているにもかかわらずその活動は地域に知られていないように感じたためです。それはもったいないと思います。また、NPO法人ひだまりが地域の憩いの場となることを目指しているのならば、なおさら広報活動ができれば良いと思いました。最近ホームページの開設がされたということで、そのホームページが十分に生かされると今後良いと思います。「ようこそようこよ」でホームページができましたことを知らせたり、更新した際には更新したことを載せられるとより活発な広報活動へとつながると思います。

8. 地域活動から学んだ地域福祉、私達・私の想い・考え方

地域には多くの資源があると思いました。NPO法人ひだまりでは、多くのボランティアがいます。そのことは、NPO法人ひだまりが地域で大切にされているということの表れであると思います。

書道教室や図書館の喫茶店、職場体験の受け入れ、そして、私たちサービスマーケティングの活動をする私たちの受け入れ、自分たちが地域の資源となり、ともに自分たちで地域の資源の発掘をしていると思いました。私は、大学に通うためにここに住んでいます。地域の方と関わる機会はほとんどありません。が、今回の活動により、地域活動の重要性を考える良いきっかけとなりました。今、直接地域に関わらなくても、地域に生活するということは地域につながった重要な資源だと思えることができました。